



大浦雅臣

たましんギャラリー

# 創造的破壊

ヨーゼフ・シュンペーターより

2018年5月10日[木] - 5月22日[火] 10:00 - 17:00 (会期中無休) 最終日のみ14:00まで



《見ようとする》194×112cm 2017年 岩絵具・水干絵具・銀箔・銀泥・墨・樹脂膠・三彩紙 撮影・島村美紀



《Boost》53×41cm 2017年 岩絵具・水干絵具・銀箔・銀泥・墨・樹脂膠・三彩紙・水金箔 撮影・島村美紀

日本画家・大浦雅臣（1977年生まれ）は「人間」を表現する人だ。大浦が2004年頃からライフワークの一つとして制作しているメカ龍をはじめとして、大浦が描くものは動物や神獣など人間以外であることがほとんどだが、しかしその制作動機の根底にあるのは、人間そのものへのきわめて強い関心であると思う。

経済学者ヨーゼフ・シュンペーターの経済における新陳代謝をあらゆる言葉から採られた本展「創造的破壊」では、会場であるギャラリーの母体が多摩信用金庫であることから、大浦がかねてから制作の構想を練っていたという経済をテーマとするメカ龍の新作がはじめて発表される。メカ龍とは、明治時代の日本画の成立過程で生じた異なる諸流派の統合に大浦が「矛盾の共存」を見、西洋近代の象徴である機械と、古代東洋・自然崇拝の象徴である龍という相反する存在を組み合わせた作品である。制作にあたっては異なる描法（日本絵画の狩野派・琳派や、アメリカの抽象表現主義など）を同じ画面上で用いることで、一方の概念に振り切るのではなく、複数のその統合による矛盾も抱えた中庸こそがこれからの未来に必要な思考であるというコンセプトを持つ。

今回は、そうしたこれまでのメカ龍の近作のほか、大阪万博の開催された1970年から、バブル景気が最高潮に達した1989年までの日経平均株価と出来高のチャートがモチーフとなった新作とエスキス数点がメインとして展示される。大浦は、安く買いたい人間と高く売りたい人間の双方のやりとりによって生まれる株価に「矛盾の共存」を見出し、さらに、大浦にはその時期のチャートが高層ビルの上空を飛ぶメカ龍の姿に見えるのだという（本チラシ表面の写真がそれである）。つまり本作は、矛盾を見出した日経平均株価のチャートを、「矛盾の共存」をあらゆるメカ龍で表現することで、その越境が目指されたものといえる。

大浦の言葉を借りて「矛盾の共存」、あるいはその「統合」などという言葉を使い、さらにメカ龍の超越的で神妙なたたずまいを見ると、なんと悟りきった作品かと思われるかもしれない。だがこのことはむしろ、それだけ人間ないし世界は多くの矛盾を抱えており、大浦がそこに目を向けているということの証左にほかならない。あらゆるものが移りゆき、変化するなかで、わたしたちは対立するものや割り切れないものもときにのみみみながら、たとえ苦しみを胸中に宿してでも、生きていく。一般論であるが、大浦の作品はそのような一般論の上に積極的に立ったうえで、では人はどうそれを乗り越え生きることができるのかと作品によって投げかけているのではなかったか。願わくばその先に新しい創造の契機があるとして、本展を決して理想的には統合しえない人間の営みや感情を見つめる逆説的な機会ともしたい。

小金沢智（太田市美術館・図書館学芸員、日本近現代美術史）

## 大浦雅臣 略歴

1977年東京都生まれ。

武蔵野美術大学大学院 造形研究科美術専攻 日本画コース修了。

堂島リバーアワード2016、中之条ビエンナーレ、第一回枕崎国際芸術賞展、アートプログラム青梅他、個展・グループ展多数。

2010年より、市川裕司・金子朋樹・佐藤裕一郎・西川芳孝・松永龍太郎・小金沢智の計7名からなるアーティスト集団「ガロン」に参加。

公益財団法人平野美術館、ベネトン財団に作品収蔵。

2018年、紫雲山 瑞聖寺へメカ龍作品を奉納予定。

Website - <http://oura.jimdo.com/>

## たましんギャラリー

〒190-8681

東京都立川市曙町2-8-28

多摩信用金庫本店9階

tel. 042-526-7717

<https://www.tamashin.or.jp>

JR立川駅 北口 徒歩5分

モノレール 立川北駅 徒歩4分

